

令和7年度 柏小学校自己評価書

重点目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察(◇) 改善方策(◆)						肯定率	個別評価		
							4	3	2	1					
学びづくり(確かな学力の定着と向上)	1 基礎的・基本的な学力の定着	学校は、個の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、個別最適な学びの充実に努めているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・保護者の肯定率が90%を上回っているが、教職員①の項目が80%台の項目があった。全体的に基礎的・基本的な学力の定着は図れているが、個に応じた支援が必要な児童への対応に課題が残る。 ◆全国学力・学習状況調査や単元末テストの結果を丁寧に分析し、その結果を基に、個別最適な学びの方法を工夫・改善する。また、基礎的・基本的な学力の定着を図るため、「かんべきタイム」などを活用し、全校体制での取組を継続していく。	児童①	60.0	34.3	5.7	0.0	94.3	A		
							統一					33人			
							児童⑦	71.4	22.9	5.7	0.0	94.3	A		
							保護者①	34.3	62.8	2.9	0.0	97.1	A		
							教職員①	50.0	37.5	12.5	0.0	87.5	B		
							教職員②	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A		
	2 学習習慣の確立	学校は、児童に家庭学習の習慣が身に付くよう家庭学習を工夫し、自己学習力の育成に努めているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定、学年ごとに設定した家庭学習の達成率が80%以上(児童のチェックカード)	中間期	B	◇児童の肯定率は90%を上回っているが、教職員が80%台、保護者は約65%と低い。自己評価による達成率が高いが、教職員・保護者から見ると十分とは言えない。 ◆算数科での予習を習慣化することで、「家庭学習が授業の中で生きている」という実感を児童に持たせる。さらに、児童自身が目標を設定し、家庭学習に主体的に取り組む習慣を身に付けられるよう支援していく。	児童⑧	57.1	34.3	2.9	5.7	91.4	A		
							統一					32人			
							家庭学習達成率					57.1%			
							保護者②	17.1	48.6	28.6	5.7	65.7	D		
							教職員⑤	42.9	42.9	14.3	0.0	85.8	B		
							3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を目指して指導方法を工夫し、児童が「分かる・考える・伸びる」授業づくりをしているか。	児童・教職員の90%以上が肯定	中間期	B	◇児童の肯定率は90%を上回っているが、教職員は80%台である。児童が主体的に学び続けるためには、児童が自ら学ぶことのできる課題設定や発問の工夫、対話的に学ぶ場面を多く設定していくことが重要である。 ◆算数科を中心に、「自走する学び」が着実に定着しつつある。教職員が日常的に情報交換を行うとともに、定期的な授業公開を継続することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善につなげていく。	児童②	57.1	40.0
児童③	54.3	50.0	12.5	0.0	87.5	B									
教職員②	37.5	57.1	14.3	0.0	85.7	B									
教職員④	28.6	25.7	2.9	2.9	94.3	A									
年度末	B	◇教職員の肯定率が100%に達し授業改善の成果が表れているが、一部にC評定もあり教員間で達成感に温度差がある。児童の肯定率も概ね高いが、個々の教員が授業改善の手応えをより深める余地が残されている。 ◆公開授業や情報共有を継続し、組織全体で授業改善の具体的なポイントを明確にする。算数科の「自走する学び」を他教科へ広げ、児童が「分かる・考える・伸びる」を実感できる深い学びを推進する。	児童②	51.8	37.9	10.3							0.0	89.7	B
			児童③	72.5	24.1	3.4							0.0	96.6	A
			教職員②	42.9	57.1	0.0	0.0	100.0	A						
			教職員④	25.0	50.0	25.0	0.0	75.0	C						

重点 目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察(◇) 改善方策(◆)										
							4	3	2	1	肯定率	個別 評価				
学びづくり(確かな学力の定着と向上)	4 情報活用能力の育成	児童や教師がクロームブックを積極的・効果的に活用し、よさや楽しさを実感しているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	B	◇児童、教職員の肯定率は、90%を上回っているが、保護者は約68%と低い。児童は、クロームブック等を使った学習を「楽しい・分かりやすい」と回答しているが、家庭での活用が十分ではない実態が伺える。 ◆授業での活用については、これまでの取組を継続する。また、各学年の実態に応じて家庭への持ち帰りの頻度を調整し、家庭でもEILSやドリルパークの活用、自分の興味に応じた調べ学習ができる環境を整えていく。	児童④	68.6	25.7	2.9	2.9	94.3	A			
							統一					33人				
					年度末	A	◇児童・教職員・保護者の全指標で肯定率が90%を超え、特に保護者は68.6%から96.7%へ劇的に向上した。授業内での活用に加え、家庭での端末利用が浸透したことで、ICTの有用性が広く実感された結果と言える。 ◆現在の高い活用意識を維持しつつ、今後はEILSやドリルパークを個々の習熟度に合わせてより効果的に運用する。児童の興味に応じた調べ学習をさらに推奨し、端末を日常的に使いこなすスキルの定着を図る。	児童④	86.2	13.8	0.0	0.0	100.0	A		
								統一					34人			
	5 読書活動の推進	進んで読書に親しむ児童が育っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定、児童の30分読書達成率が80%以上(児童のチェックカード)		中間期	B	◇児童は約83%で、目標値を下回っている。教職員もほぼ同じ評価となっているが、個人差が大きく、まだ十分とは言えない。 ◆毎朝の読書の時間や音読の課題を活用しながら、子供たちが毎日30分の読書習慣を身に付けられるようにしていく。また、新刊の購入やみきゃん通帳の有効活用により、子供たちが本に親しみやすい環境を整えていく。	児童⑨	65.7	17.1	14.3	2.9	82.9	B		
								30分読書達成率					53.7%			
					年度末	B	◇30分読書達成率は60.3%と目標の80%を下回ったが、児童の肯定率は93.1%に達し読書への意欲自体は高まっている。教職員の肯定率も100.0%となり学校全体での推進意識は高いものの、実際の読書時間の確保には個人差がある。 ◆新刊の購入やみきゃん通帳の活用により本に親しみやすい環境を整え、毎朝の読書時間を軸に30分以上の読書習慣を定着させる。家庭と連携しながら児童が自発的に読書を楽しむ時間を確保できるよう支援する。	児童⑨	79.3	13.8	0.0	6.9	93.1	A		
								30分読書達成率					60.3%			
		学校運営協議会の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目で着実に成果が出ており、先生方が子どもたち一人一人に寄り添っている様子が見えてくる。ICTの活用や授業の工夫で学ぶ楽しさが広がっている一方で、家庭学習や読書習慣には伸びしろがあるように感じる。 ・クロームブック、書く宿題をバランスよく出しているため、どちらの勉強もできている。読書については、朝読書やビブリオバトルなど子どもたちの興味を引く取組があり、本に触れる機会がふえていると思う。 ・情報があふれている今の子どもたちを取り巻く生活の中で、正しく取捨できる能力が問われてくるのではないだろうか。 ・一部の児童の中には、先生に教わったことを自分の都合よく理解しているつもりでいる子がいる。 				学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での「かんべきタイム」や図書の新刊導入等の成果を家庭へつなげ、個人差の大きい家庭学習・読書時間の確保(目標30分)に向けた啓発と、ビブリオバトル等の意欲を高める工夫を継続していく。 ・評価いただいた「クロームブックと書く宿題」の併用を維持しつつ、端末を思考のツールとして活用する場面を精選する。また、デジタルとノート記述の双方の利点を活かし、確かな学力の定着を図る。 ・情報の取捨選択や客観的な理解に関する示唆を真摯に受け止め、全教科で「主体的・対話的で深い学び」を推進する。一人一人に寄り添う指導を通じ、情報を正しく読み解き、多角的に判断できる力を養っていく。 								
	6 主体性、礼儀と感謝の心の育成	児童が自ら「気付き・考え・実行する」とともに、決まりを守り、礼儀や感謝の心が育っているか。	児童・保護者・地域・教職員の90%以上が肯定		中間期	A	◇児童・地域・地域の肯定率は90%を上回っているが、挨拶に関する保護者の肯定率と教職員の「気付き・考えて・実行する」児童の育成に関する肯定率が90%を下回っている。 ◆道徳科や学級活動を中心に、教育活動全体を通して指導していく。また、児童が自らの行動を振り返る場面を設け、どうすればよりよいかかわりができるかを考えさせ、実践に生かせる指導を継続していく。	児童⑫	45.7	45.7	8.6	0.0	91.4	A		
児童⑬								74.3	22.9	2.9	0.0	97.1	A			
					年度末	A	◇挨拶や決まりを守る意識について、児童・教職員ともに9割前後の高い肯定率を維持し、良好な生活態度が定着している。一方で、保護者の肯定率は中間期より僅かに低下しており、校外での実践力向上に課題が残されている。 ◆道徳科や学級活動を核として、自分の行動を振り返り「よりよい関わり方」を自ら考える機会を継続的に設ける。地域・家庭との連携を深め、学校で培った主体性や礼儀を校外の場でも発揮できるよう、粘り強く指導していく。	児童⑫	48.4	44.8	3.4	3.4	93.2	A		
								児童⑬	72.4	24.1	0.0	3.4	96.5	A		
							児童⑭	86.2	10.3	3.4	0.0	96.5	A			
							保護者⑦	36.7	46.7	13.3	3.4	83.4	B			
							地域①	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A			
							教職員⑧	44.4	55.6	0.0	0.0	100.0	A			
							教職員⑦	16.7	66.7	16.6	0.0	83.4	B			

重点 目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察(◇) 改善方策(◆)						肯定率	個別 評価
							4	3	2	1			
体 づ く り	9 基本的生活習慣の確立	規則正しい生活をする児童が育っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・教職員の肯定率は90%を上回っているが、保護者の肯定率は90%を若干下回っている。「早寝・早起き・朝ごはん」等の習慣化に向けて、家庭と連携した指導が必要である。 ◆基本的生活習慣を身に付けることの大切さについて、データや資料を活用して、体育科や特別活動、保健委員会の活動等、様々な場面で伝える。	児童①	60.0	34.3	5.7	0.0	94.3	A
							統一					33人	
							保護者⑥	42.9	45.7	5.7	5.7	88.6	B
				教職員⑨	44.4		55.6	0.0	0.0	100.0	A		
				年度末	A		児童①	69.0	20.7	6.9	3.4	89.7	B
							統一					31人	
	保護者⑥	50.0	43.3			6.7	0.0	93.3	A				
	教職員⑨	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A						
	10 体力づくりの推進	学校は、児童の体力向上のための取組を積極的に行っているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・保護者の肯定率は90%を上回っているが、教職員の肯定率は約85%であり、目標値を下回っている。体育科の授業や放課後の水泳練習等で体力向上を図っている成果が見られている。 ◆放課後の陸上練習や「いきいきタイム」を活用し、走る運動、ボール運動、縄跳び等様々な運動に取り組ませる機会を作っていく。	児童②	74.3	22.9	2.9	0.0	97.1	A
							保護者⑩	48.6	51.4	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑬	28.6	57.1	14.3	0.0	85.7	B
				年度末	A		児童②	75.9	20.7	3.4	0.0	96.6	A
保護者⑩							59.3	40.7	0.0	0.0	100.0	A	
教職員⑬							60.0	20.0	20.0	0.0	80.0	B	
学校運営協議会の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に意欲的な児童が多く、体力向上に向けた学校側の環境づくりが、子どもたちの前向きな姿勢につながっていることが伺える。楽しみながら体力を高める習慣が広まっている点は非常にすばらしいと感じます。 ・体力づくりの目標を持ち(校内持久走大会等)取り組んでいる。 ・学校以外の習い事(スポーツ・文化芸術)をしている子どもにとっては、時間に追われるので、メリハリのある規則正しい生活が必要となる。 				学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事等で多忙な児童も「早寝・早起き・朝ごはん」を意識できるよう、保健委員会等と連携し、データを用いた多角的な啓発活動を行う。長期休業後など生活リズムが乱れやすい時期を中心に家庭と密に連携し、学校全体で規則正しい生活習慣の定着を支援する。 ・「いきいきタイム」や放課後の練習において、多様な運動に親しむ機会を継続して確保する。児童が自らの目標を持ち、楽しみながら主体的に体力を高められるよう、全職員で指導の工夫を共有し、前向きに挑戦できる環境を整える。 ・学校以外の活動と学校生活のバランスを考慮し、限られた時間の中で集中して取り組む「メリハリのある生活」を指導していく。児童一人一人が自分の生活を客観的に振り返り、心身の健康を自ら管理できる力の育成を目指す。 							

重点 目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察(◇) 改善方策(◆)						肯定率	個別 評価
							4	3	2	1			
特色ある学校づくり	11 安全・防災教育の充実	学校は、安全(防災)教育を教育課程に位置付け、家庭や地域・関係機関等と連携して「命を守る教育」を推進しているか。	児童・保護者・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・保護者・教職員共に肯定率はほぼ100%である。保護者や地域の意見からも、防災に関する意識が非常に高いことが伺える。 ◆今後も、防災学習や防災マップ作りを通して、防災に関する学びを深めるとともに、学んだ成果を積極的に発信していく。また、外部の方と協働した避難訓練等を充実させていく。	児童⑳	85.7	11.4	2.9	0.0	97.1	A
							保護者㉓	48.6	51.4	0.0	0.0	100.0	A
							保護者㉔	71.4	28.6	0.0	0.0	100.0	A
							地域⑤	78.6	21.4	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉕	88.9	11.1	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉖	70.0	30.0	0.0	0.0	100.0	A
	12 ふるさと学習の推進	学校は、地域人材や自然・文化を活用するなど、地域の教育力を生かした教育活動を推進しているか。	児童・保護者・地域・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇保護者・地域・教職員の肯定率はすべての項目について90%を上回っているが、児童の「自分が住んでいる地域のよさに気づきましたか。」という設問の肯定率が目標値を下回っていた。 ◆地域コーディネーターが、地域と学校をつなぐ役目となって、豊かな体験活動を行うことができている。今後は、体験活動を振り返る時間を充実させ、ふるさとを愛する心を育成していく。	児童⑲	71.4	25.7	0.0	2.9	97.1	A
							児童⑳	45.7	42.9	8.6	2.9	88.6	B
							保護者⑨	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	A
							地域②	71.4	28.6	0.0	0.0	100.0	A
							教職員㉓	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑮	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0	A
13 開かれた学校づくり	学校は、各種通信やホームページ等で、学校の取組を発信したり、参観日等で積極的に公開したりしているか。	保護者・地域・教職員の90%以上が肯定、毎月の学校だより、学級通信の発行、ホームページの更新の実施率が90%以上	中間期	A	◇ホームページや通信等を通して、教育活動や児童の様子を積極的に伝えるよう努めたことにより、保護者・地域・教職員の肯定率は、すべてにおいて100%であった。 ◆今後も、積極的に学校の情報を発信し、保護者や地域の方に教育活動や児童の様子を伝えたり、地域交流の機会を充実させることで、地域と共にある学校づくりを推進していく。	保護者⑫	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	A	
						地域④	85.7	14.3	0.0	0.0	100.0	A	
						教職員⑰	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	A	
						教職員⑳	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	A	
						通信・HP実施率					100%		
						教職員㉔	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A	
	13 開かれた学校づくり	学校は、各種通信やホームページ等で、学校の取組を発信したり、参観日等で積極的に公開したりしているか。	保護者・地域・教職員の90%以上が肯定、毎月の学校だより、学級通信の発行、ホームページの更新の実施率が90%以上	年度末	A	◇保護者・地域・教職員の全指標で肯定率100%を達成し、通信やHPの実施率も目標を完遂している。積極的な情報発信により、教育活動や児童の様子が各家庭や地域へ極めて効果的に共有されている。 ◆今後もホームページや各種通信を計画的に更新し、学校の取り組みをタイムリーかつ多角的に発信し続ける。参観日や地域交流の機会をさらに充実させ、地域と共に歩む信頼性の高い学校づくりを一層推進する。	保護者⑫	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	A
							地域④	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑰	40.0	60.0	0.0	0.0	100.0	A
							教職員⑳	71.4	28.6	0.0	0.0	100.0	A
							通信・HP実施率					100%	
							教職員㉔	83.3	16.7	0.0	0.0	100.0	A
学校運営協議会の所見					学校の対応							100%	A
							<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習や「命を守る教育」が着実に実を結んでいるとの評価を励みに、今後も外部機関や地域と連携した避難訓練等を充実させていく。自ら判断し行動できる実践的な防災意識の向上を、組織的に推進する。 ・地域の専門家や資源を積極的に活用した学習を継続し、児童が郷土への愛着と誇りを深められるよう支援する。体験後の振り返りを工夫し、学んだ内容を自分事として捉え、地域とともに歩む教育活動を一層充実させる。 ・学校HPや各種通信の計画的な更新により、教育活動の透明性を高め、地域・家庭との信頼関係を深める。参観日や地域交流の機会をさらに充実させ、情報の双方向性を意識した「開かれた学校づくり」を推進する。 						

重点 目標	評価項目	評価指標	目標値	期間	評定	考察(◇) 改善方策(◆)						肯定率	個別 評価
							4	3	2	1			
環境 づくり	14 きれいな学校づくり	学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めているか。	児童・地域・教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇児童・地域・教職員の肯定率は90%を上回っている。教室環境や校舎内外の環境整備に努め、安全な環境を維持することができた。児童も清掃活動に熱心に取り組むことができた。 ◆きれいな環境が人を育てることを意識し、今後も継続して、校舎内外の美化や環境整備に努めていく。	児童⑮	68.6	28.6	0.0	2.9	97.1	A
							地域⑥	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	A
				教職員⑱	50.0		50.0	0.0	0.0	100.0	A		
				児童⑮	82.8		13.8	3.4	0.0	96.6	A		
	15 安全管理の徹底	学校は、教職員の危機意識を高め、児童の安全確保に努めているか。	教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇月に一度、校舎内外の安全点検を行い、不具合のある場所は、その都度修理するよう努めており、肯定率は90%以上を達成している。 ◆今後も、全教職員が危機意識を高く持ち、互いに声を掛け合いながら、安全な環境づくりに努める。	教職員⑮	60.0	30.0	0.0	10.0	90.0	A
							教職員⑳	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	A
				年度末	A		教職員⑮	71.4	28.6	0.0	0.0	100.0	A
				教職員⑳			100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	A	
	16 教職員の資質・能力の向上	教職員は自らの資質・能力の向上に努めているか。	教職員の90%以上が肯定	中間期	A	◇教職員の肯定率は、すべての項目で100%であった。校内研修会を中心に、外部講師を招いた研修会や相互研修ネットワークを活用した研修など、それぞれが自ら進んで研修に努めることができた。 ◆今後も「学び成長し続けること」を意識した校内研修や自己研修を充実させ、個々の資質・能力の向上に努め、子供たちの豊かな学びにつなげていく。	教職員⑳	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A
							統一					10人	
				教職員㉑	75.0		25.0	0.0	0.0	100.0	A		
				教職員㉒	100.0		0.0	0.0	0.0	100.0	A		
				年度末	A		教職員㉑	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A
				統一							8人		
	17 学校組織の活性化	学校の運営体制を組織的・計画的に点検・評価・改善し、業務改善に努めているか。	教職員の90%以上が肯定、 毎月の超過勤務時間が80時間を超えない 教職員の割合が100%	中間期	A	◇教職員の肯定率はすべての項目において90%を上回り、目標を達成している。毎月の超過勤務時間が80時間未満の教職員は、100%で目標を達成している。 ◆働きやすさと働きがいを重視しながら、業務改善に継続して取り組み、その中で時間外勤務を減らすように努めていく。	教職員㉓	50.0	40.0	10.0	0.0	90.0	A
							超過勤務 80時間未満					100.0%	
教職員㉔							50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A	
教職員㉕							60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	A	
教職員㉖							80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	A	
教職員㉗				75.0	25.0		0.0	0.0	100.0	A			
教職員㉘				80.0	20.0		0.0	0.0	100.0	A			
年度末				A	教職員㉓		55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A	
					超過勤務 80時間未満						100.0%		
					教職員㉔		50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	A	
	教職員㉕	77.8	22.2		0.0	0.0	100.0	A					
	教職員㉖	77.8	22.2		0.0	0.0	100.0	A					
教職員㉗	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0	A							
教職員㉘	55.6	44.4	0.0	0.0	100.0	A							
学校運営協議会の所見					学校の対応	<p>・校内外の美化や安全管理への高い評価を励みに、今後も月一回の安全点検を徹底し、不具合の早期発見と迅速な修繕に努める。また、児童による清掃活動の充実を通じ、環境を大切にする勤労・奉仕の心の育成を継続していく。</p> <p>・校内研修や相互参観を活性化させ、「学び成長し続ける」意識を持って個々の指導力を高める。教職員が一体となって研修や業務改善に取り組み、その成果を日々の授業や児童支援に反映させることで、教育の質のさらなる向上を図る。</p> <p>・業務改善による超過勤務の削減と「働きがい」の両立を推進し、組織として機能的な学校運営を継続していく。登下校の安全見守りを含め、地域との良好な関係を大切にしながら、子どもたちが安心して過ごせる基盤を強固なものにしていく。</p>							